

会議の概要(要旨)

1	会議名	平成30年度 第1回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
2	開催日時	平成30年7月10日(火) 午後2時～4時
3	開催場所	ゆいまーる習志野 福祉交流スペース
4	出席者	市民協働こども発達支援推進協議会委員 阿部委員(副会長)、遠藤委員、太田委員、臺委員、望戸委員、小野寺委員、伊藤委員、江川委員、山口委員、矢島委員、齋藤委員、相澤委員、芹澤委員、北田委員、家弓委員、荒井委員、木下委員 こども部:小澤部長、小平次長、木村主幹 事務局:ひまわり発達相談センター 内村主幹、續主査、吉村、中村 傍聴人:1名
5	議題 及び 会議の内容	<p><b>第1 習志野市こどもの発達支援に関するモニタリング調査について(発セ 内村主幹)</b></p> <p>平成27年度に実施したこどもの発達支援に関する基礎調査の結果を踏まえ、平成30年度にこどもの発達支援に関するモニタリング調査を実施します。</p> <p>調査目的は、3年間を経ての比較を行い、発達支援施策の実効性を検討し、今後の取組みに結びつけていくことです。</p> <p>調査対象者は、前回と同じ条件で、発達支援に関わる保護者や支援者です。</p> <p>調査内容は、前回と同じ調査票を使用します。調査票は平成26年度に協議会とネットワーク会議が策定したロジックモデルに基づいて作成されております。問1から2は回答者の基礎情報、問3から9は中間アウトカムに対応する回答者の現状や考え方、問10から17は直接目的に対応する回答者の現状や考え方を把握するための設問です。</p> <p>平成27年度の調査結果としましては、保護者グループは支援者グループと比べ、現状は好ましくない状況であると評価する傾向が見られました。必要な情報が得られていない、就労や学校で差別や排除がある、地域に助けてくれる人がいない等で回答に差がありました。この差を埋める取組みとして、ホームページ、広報やチラシでの情報提供、地域イベント主催者との話し合いに取り組んでまいりました。それを踏まえて、平成30年度の状況を調査してまいります。</p> <p><b>協議</b></p> <p>江川委員:保護者と支援者の回答における具体的な違いを教えてください。</p> <p>内村主幹:保護者は相談がしやすいけど、必要な情報が得られていないと回答しているが、その懸念している度合いが支援者より大きい。支援者は情報提供を行っているという認識をしている可能性も考えられる。支援者は、どのような情報が必要なのか等、保護者との間に認識の差があることを意識して取り組まねばならない。</p>

阿部副会長：支援者も具体的なイメージを持てるように取り組んでいただきたい。

芹澤委員：地域イベントの取組みは具体的にどのような内容か。

内村主幹：調査結果に子どもが参加できる地域イベントが少ないという回答があり、今年2月に小藪委員の御厚意で、津田沼連合町会と話し合いの場を持ち、夏の盆踊り大会に携わっていく試みを考えている。

太田委員：今回の調査においても、保護者と支援者でグループ毎の回答に差がある可能性がある。その差を掘り下げるため、追加で調査する手法もある。この調査では匿名回答だが、了承を得られるのであれば、そういう感じ方をした回答者から直接お話を聞いて、具体的に課題や原因を探っていくこともできると考える。

内村主幹：検討したい。

## 第2 ホームページサイト、きらっといっぽの会2017について(発せ 内村主幹)

昨年12月に市役所ホームページ内で「こどもの育ちを応援します！」のページの公開を開始しました。協議会の市民委員を中心に結成された「きらっといっぽの会2017」が作成しております。これは、平成27年度の基礎調査の結果として、保護者に必要な情報が届いていないという現状の課題が出てきており、このことに対する取組みです。今回は公開後の取組みについて御報告いたします。

第一に、保護者の体験談を追加掲載しました。

第二に、子育てショートあるあるでは、ちょっとした工夫で子どもが理解してくれたり、話が伝わったりした短く読みやすい体験談を掲載しています。小さなことだけど、読んだ人にとって手がかりとなるような内容を考えていきたいです。

第三に、広報、子育てハンドブックやすこやか子育てガイドに案内を掲載し、また、委員のみなさまに御協力いただき案内チラシを配布し、ホームページの周知を行いました。案内にはQRコードを記載しております。

今後の取組みについては、子育てショートあるあるを連載していきます。保護者が必要としている情報を探っていくために、療セの保護者会でお話を聞いたり、発せを利用する保護者から直接お話を伺ったりアンケートを記入して頂いたりして、集めていきます。

「きらっといっぽの会2017」各委員の意見・感想

### 【A委員】

私の子どもは20歳を過ぎている。子育ては過去のことではあるが、当時の自分にとって何が一番辛かったか考えながら、ホームページの絵を描いた。まだまだ手さぐりだが、お母さんが何を知りたいのか見失わないようにしていきたい。読んでい

ただいた人の感想が聞きたい。

今のお母さんはみなさんスマホを持っていて、インターネットで情報を得ることができる。私のときは誰に聞けばいいのかもわからなかった。今はまずインターネットで調べるが、最終的には人と人の繋がりが大切になってくる。先生やまわりのお父さんお母さんと悩みを話して、気持ち楽になった。人と人を繋ぐきっかけとなるホームページにしていきたい。「アプリにしてほしい」「ホームページは探すのが大変」等の感想も頂いている。今後の更新を市と検討していきたい。

#### 【B委員】

息子が23歳で、育てていく中で同じ障がいのあるお友達や家族の知り合いができ、父母の会の代表として活動もしているので、わかっているつもりだった。だが、この会で、障がいの内容が違う人たちと話し合える場を持つことができ、あらたに知ることがあった。子どもの困り感、お母さんの困り感、みんなで話して共感できたり、うちはこうだった、こういうこともあるのかとあらためて知ることができたり、とてもいい話ができ、みんなで盛り上がった。

父母の会の活動では、講演会を開いてもあまり人が集まらなかったり、PTAに向いても会の勧誘をするのではと思われてしまったり、伝えたいことがあるのに、自分の活動にもどかしさがある。

ホームページは、みんなに伝えたいことを伝えられるいい機会だと思う。体験談は、それこそ個人のホームページでもいっぱい見られるけど、習志野市ならではの体験談を市のホームページに載せて、習志野市で利用できるサポート情報を出していけることはいいと思う。子育て中は、漠然とした不安がある。この子はどう育つの？このあと私はどうなっていくの？大きくなったら何をしているの？など、イメージがしづらい。個別支援計画で保護者が記入する欄が書きづらかった。習志野市はこんな感じ！というものをを出していきたい。

#### 【C委員】

ショートあるあるは、ラインのノート機能を使って、まず自分の体験談を例として書いて、みんなの体験談を書いて追加してもらって編集した。

体験談を読んでいくと、障がいの程度や内容が違って、自分が経験していなくても、共感ができる。また、こんな解決方法があったのか！早く知りたかった！と気付きもある。子育て中で今悩んでいる人に届いてほしい。A委員がお話されたように、最後は人と人のつながりが大切となってくる。直接話してみることが大事になってくる。

今後、あじさいの保護者会に行き、保護者からどのような情報が必要か等を聞いてみる。

自分の会の活動では、先月から市役所ロビーでおしゃべり会を開いている。広報はしていないが、クチコミで意外と人が来ている。「障がいや子どものことを誰に話していいのかわからない。知り合いには話しづらい。」という声を聞く。プロではない自分には、自分の体験談を話すことしかできないが、でも、悩んでいる人は、ほかの人の体験談を聞いたり、自分の悩みを話せたりするだけで、気持ちが楽になる。必要な場と感じている。

### 第3 習志野市発達支援サポートネットワーク会議の報告について(木村会長)

昨年度は、事例検討のグループワーク及びそれぞれの関わりの中で個別支援計画のメリット・デメリットについて協議を行いました。

今年度は習志野市障がい者地域共生協議会様からの意見書や、県の動向を踏まえた上で、31年度以降の乳幼児個別支援計画が果たすべき役割について協議をしていきます。第1回会議は5月18日に開催しました。

地域共生協議会様からの御意見としては、①成人後も活用できるような内容を検討してほしい②個別支援計画という名称は、福祉サービス事業所が作成する計画と同じ名称であることから、名称の変更も検討してほしい③現在使用している啓発チラシを改良してほしい④保護者向けに活用学習会の機会を設けてほしいといった内容でした。

また、県はライフサポートファイルを推奨しておりますが、本市は県よりも先んじて平成20年度より本協議会やサポートネットワーク会議、保育教育現場、教育委員会が一体となって乳幼児個別支援計画、個別の教育支援計画の取り組みを進めております。県のライフサポートファイル、事業所の個別支援計画、本市の乳幼児個別支援計画、個別の教育支援計画はそれぞれ関係機関の連携を円滑にし、保護者の負担を軽減することを目的としていることは共通しています。ただ、ライフサポートファイルは成人後まで活用できるものとはなっているという点で相違があります。

今後、サポートネットワーク会議の特色である、発達支援を要する子どもたちに携わっている3部署、教育委員会・健康福祉部・こども部の職員が参加して協議が出来るという長所を生かし、過去の経緯を踏まえながら協議を進めてまいりたいと考えております。

#### 協議

家弓委員：療セは、個別支援計画と個別指導計画を作成している。個別支援計画は、乳幼児個別支援計画のことである。個別指導計画は、事業所の個別支援計画のことである。療セでは、名称が同じなので、あえて名

称を変えている。各事業所ごとに独自に使っている様式もあると思う。乳幼児個別支援計画の様式3-2など、同じ内容を書かねばならない部分もある。同じ内容であれば、他で使っているものの写しを添付することができるようになるといい。

望戸委員：個別支援計画、ライフサポートのほかに、学校教育分野では、個別の教育支援計画と指導計画がある。子どもの支援が一本につながって、引き継がれるべきものなのに、それぞれの機関で計画を作りはじめたために複数ある現状となっている。

ほとんど同じ内容だが、項目が少し違っているため、保護者にそれぞれ書いていただいているが、「前に似たようなものを書いたのに、また書くのか？繋がっていないのか？」と聞かれることもある。職員としては、今の様式が使いやすいということもある。その子どもに関わっている場所で、それぞれどういう使われ方をしているのか。もっと活用しやすく、一貫したものにしていきたい。

阿部副会長：0歳の頃からまた同じような内容を書くのかという思いもあり、各所で子どものために情報を非常に必要としているのだとも思う。事業所もそれぞれ計画や様式を持っている。擦り合わせが必要となる。

矢島委員：障がい福祉課においても独自に作成しているケース台帳があったり、関係機関との連絡体制を考えたりしている。現場もやりにくさを感じることもあり、今後の課題である。

太田委員：特別支援教育が始まって10年経ち、習志野市はその前から取り組んでいる歴史もある。保護者から何度も書かされるという声が出ている。いろいろな立場の人が顔を合わせる場でひとつひとつ合意をとって、使いやすいように、また、役に立つように擦り合わせていきたい。アメリカでは計画がないとサービスが受けられない制度だが、日本ではなくても支援が成り立っている。負担感があり、煮詰まっているのは全国的に見られることである。子どもの基礎情報や成育歴は共通する情報なので、共有できるようにしていきたい。

臺委員：千葉県のライフサポートファイルや外国の取組みを分析し、研究している。自治体によって名称に違いはあるが、支援を受けるための内容のものが作成されている。親が主体的に使っていく形式の自治体もある。自分のポートフォリオであり、これが好き、こう伸びる、こういう子である、だからこういう支援をしてください、という内容。当事者が使いやすく、大人になっても持っていられるようなものを考えていきたい。

#### 第4 平成30年度単年度戦略について(発セ 内村主幹)…資料1～7

発達支援施策に関するロジックモデル(資料6)のより詳しい今年度の取組みをとりまとめたものとして、平成30年度単年度戦略(資料7)を配布しております。各取組みの目的、内容、担当課等が示されています。

前年度からの変更点として3点を説明いたします。1点目として、ひまわり発達相談センターが開催する研修の名称について、発達支援基礎研修等という記載に変更いたしました。2点目として、昨年度は発セ開設5周年記念事業のシンポジウムを開催しましたが、今年度は発達支援基礎研修公開講座を開催します。このため、シンポジウムの記載を削除いたしました。3点目として子どもが参加できる地域イベントを検討する地域との会合を持つ取組みをあらたに掲載しました。

これは、平成27年度の基礎調査で、子どもが参加できる地域イベントが十分あるとは思えないという結果が出たことに対する取組みです。今年2月と5月に小藪委員の御厚意で、津田沼連合町会と話し合いを行った結果、試行的に発セ利用者の希望者と、職員及びボランティアが夏の盆踊り大会に参加することとなりました。また、2月にきらっといっぽの会で意見交換を行った際には、「保護者が常に付き添わないと参加できないので、子どもが保護者以外の人と一緒に参加できる体験はとても大きいと思う。」「音が苦手だったり待てなかったりする子どもに配慮があると助かる。」という意見が出ました。地域とどういことができるか話し合いを続けていきたいと考えております。

#### 第4-2 盆踊り大会への参加について(発セ 續主査)

当日の流れを説明いたします。ただいま発セ内にポスターを掲示し、参加者を募っています。ボランティアのお手伝いとともに一緒に参加できることや、会場が駅から近いことを利用者に周知しております。また、音や光に興奮したり不安になったときに会場から離れられるように、休憩スペースとしてサンロード津田沼6階の特別会議室を借りております。会議室の窓からお祭りの様子を覗いてみることもできるので、会場にいらなくても安心して参加ができます。

家族の意向を伺って、当日の参加方法を選びます。ボランティアの付き添いを受けて家族と子どもと一緒に会場を回るか。または、家族は別行動で、子どもだけでボランティアと一緒に会場を回るか。子どもは家族じゃない人や地域との関わりを体験したり、家族は普段関われない子どもの兄弟との時間を過ごしたりすることができるのではと考えております。ボランティアは近隣の大学の学生に御協力いただく予定です。

#### 協議

阿部副会長:山口委員は、昨年度発セ所長として津田沼連合町会と連絡を取られ

てきたかと思うので、お話を伺いたい。

山口委員：小藪委員に相談しながら、2月に津田沼連合町会と話し合いを持ち、盆踊り大会に参加することとなった。数年前から国際交流協会の方も参加するようになっており、受け入れができるということだった。

ロジックモデルの直接目的の1つに地域との関わりがあり、盆踊り大会への参加はその具体的な取り組みひとつである。今年度初めての取り組みであるので、参加者の親子、ボランティア、町会、各委員から御意見を頂戴して、内容を評価していきたい。これをきっかけに広がっていくこと、また1つの形ができていくことで、最終アウトカムへ繋いでいきたい。

相澤委員：子育て支援課ではこどもセンターでイベントを行っている。毎年10月にはお祭りを開催しているので、参加していただけたらと思う。

齋藤委員：保育所・幼稚園・こども園も、地元のお祭りに参加させて頂いている。施設として、できるだけ地元に関わっていききたいという意向がある。

木下委員：行事に参加することはなかなかないが、総合教育センターでは相談を受けている。今年度一番多い相談は不登校についてである。ケース会議にて、特別支援教育の相談でなくても、いろいろ話し合っていく中で発達障がいに関わっていくことも多い。会議には、青少年テレホン、教育相談、特別支援相談、適応指導教室のすべての相談員が出ている。いずれも繋がっているという視点を持つことが必要だと感じる。

荒井委員：指導課では、平成30年度から32年度の特別支援教育推進基本方針を立てている。また、31年度から32年度の特別支援学級・通級指導学級整備計画を進めている。教育支援委員会にて行っている。保護者、子どものニーズに応えることは大変だが、総合教育センターとも連携して、市全体の特別支援教育の整備に取り組んでいきたい。

太田委員：特別支援学校や学級の児童数は増えているか。通常学級の児童数は増えていない。今まで通常学級にいた子どもが特別支援学級に弾き出されているということか。

荒井委員：児童数は増えている。保護者の困り感があり、保護者からの支援学級、通級指導教室へのニーズが高まっている。通常学級に在籍して、支援学級にも通っている形である。

阿部副会長：特別支援学校の児童数は増えているか。

望戸委員：増えている。

北田委員：4月から着任した。今年度の取り組みとして、相談の充実を図っていき

い。しっかりと保護者に情報を伝えて、家庭での保護者の関わり方に繋げていきたい。また、巡回相談や施設向研修、保育所・幼稚園・こども園との連携を行い、専門的な関わり方を所属の先生と一緒に学んでいただき、支援を考えていきたい。

阿部副会長：子ども同士の交流、支援者同士の交流、それぞれ大きな意味がある。

芹澤委員：支援者側が枠を作っていくものとは別に、地域に入っていく形もいい。地域が変化していくこともある。子どもやボランティアなど何人が参加したのか御報告いただきたい。ボランティアとして参加したい。

阿部副会長：次回の協議会で報告を聞けると思う。

#### **第5 その他(事務連絡等)**

8月22日に習志野市民会館にて講師の方をお招きし、発達支援基礎研修公開講座を開催いたします。是非委員の皆様にご出席いただきたく存じます。

第2回協議会は11月13日(火)午後1時～ ゆいまーる習志野 福祉交流スペースにて開催予定です。内容は子どもの発達支援に関するモニタリング調査結果の報告を予定しております。

**閉会**